

タイトル	大谷先生ご退職記念号に寄せて
著者	小松, かおり; KOMATSU, Kaori
引用	北海学園大学人文論集(76): 1-5
発行日	2024-03-31

大谷先生ご退職記念号に寄せて

人文学部長 小 松 かおり

本学人文学部日本文化学科の大谷通順先生は、2024年3月31日をもって長く教鞭を執られてきた北海学園大学を定年退職されます。人文論集第76号が退職記念号として発刊されるにあたり、大谷先生の本学への多大なご貢献に感謝の意を表し、送別の辞を述べさせていただきます。

大谷通順先生は、1985年7月に北海道大学大学院文学研究科博士課程中国文学専攻中退後、北海道大学助手（文学部）などを経て、1989年4月に北海学園大学教養部に講師として着任されました。1992年4月に助教授、同年より1年間の北京日本学研究中心主任教授補佐を経て1997年4月には教授となり、教養部廃止にともない、1998年4月に人文学部（日本文化学科）に転属されました。大学院文学研究科においても2006年より教鞭を取られ、以降18年間にわたり、一般教育科目に加え、人文学部と大学院文学研究科の専門教育に携わってこられました。

先生の研究テーマは、主に近代小説とは異なる原理を有する清代末年以前の小説、ダイスとカードを用いた伝統的な賭博ゲーム、近代日本において「支那通」と称された中国事情に通じた人びとの中国理解と生きざまをとおした、中国文学・文化ならびに日本におけるその受容のあり方の解明です。先生のご研究は、中国語・漢文に対する十全な素養はもとより、中国史に対する該博な知識、人間に対する深い洞察力、事物・事象の原理を見極めようとする哲学的思考に支えられたもので、中国・日本・アメリカの史資料を博搜して近代麻雀の形成・成立・展開を論じた『麻雀の誕生』（大修館書店、2016年）をはじめ、著書7（単著1、共著6）・翻訳書1・教科書2（共著2）・論文17・口頭発表20・その他16篇の業績に結実して

います。

教育では、30年以上の長きにわたって本学の中国語教育において中心的な役割を担ってこられました。授業では、一般教育科目において中国語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、中国語文化Ⅰ、中国語文化演習Ⅰ・Ⅱ、中国語言語文化演習Ⅰ・Ⅱ、世界の言語と文化、教養ゼミ、人文学部の専門科目において人文学基礎演習、人文学演習A・B、中国文学Ⅱ、大学院文学研究科において比較文学特殊講義Ⅱなどを担当され、中国語ならびに中国文学・文化の深い知識と理解に支えられた授業を展開することで、学生をつねに啓発してこられました。また、先生は、本学の一般教養語学カリキュラムのため、中野徹・中根研一両氏との共著で、2012年に郁文堂より『ほあんいん！中国語〈基礎篇〉』を上梓されました。2015年刊行の同改訂版は、現在でも中国語基礎Ⅰ・Ⅱの教科書として用いられています。

また、先生が本学の国際交流に果たした役割は、特筆すべきものがあります。とくに北京理工大学には、1990年度の第2回から2023年度の第21回まで、263名もの学生の派遣に従事し、自らも9度にわたって引率者を務められ、同大学との友好関係を築きあげられました。この間、中・長期の留学に出た学生34名、中国関連の会社・組織に就職した学生20名を輩出したことは、先生が優れた教育者でもあったことを示しています。先生が着任された1989年には天安門事件が起こり、以降、中国の大学との関係は困難をとまなうものとなりましたが、先生は着実に交流を続けるとともに、粘り強く協定の道を探られました。2022年に北海学園大学と北京理工大学留学生センターとの間で「学生研修要領覚書」が締結されたことは、ひとえに長年にわたる先生のご尽力の賜であるといっても過言ではありません。さらに、先生は、北海学園大学の中国語教育と北京理工大学との交流について、詳細な記録を残されました。この記録は今後の本学の中国語教育と北京理工大学との交流にとって非常に重要な基礎資料となるでしょう。

大学運営では、2017年4月から2022年3月まで、前任者の残任期間を含めて2期5年にわたって図書館長を務められたことが顕著な業績として

挙げられます。先生は、従来の事業を継承しつつ、図書館狭隘化対策、蔵書登録問題、除籍図書 of 処理問題、4階アクティブ・エリアの整備、北駕文庫の貴重図書・資料の管理と利用促進、さらには新型コロナウイルス感染対策の一環としての図書館の遠距離利用に取り組み、その重責を全うされました。このほか、共通教育委員長・国際交流委員会中国協定校委員長・協議員・入試委員・学生委員・教務委員・全学カリキュラム委員・学術研究会委員など重要な委員長・委員を歴任され、いずれの職にあっても大学・学部ならびに共通教育・国際交流が直面する課題に真摯に取り組み、よくその責任を果たされました。

学会活動としては、日本中国学会・中国人文学会・The International Playing-Card Society に所属され、学会を牽引するとともに後進の育成に尽力されました。また、2006年から2015年にかけて、北海道における中国語教育者の集いである中国人文科学研究会の事務局を担われ、学術研究報告・特別講演会・語学教育の理論と実践の取り組み・ニュースレターの発行に従事されました。

社会貢献としては、2013年を除き、2006年から19年にかけて「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト北海道予選大会（札幌大学孔子学院主催）の審査員、2012・16・17年に「漢語橋」世界中高生中国語コンテスト北海道予選大会（札幌大学孔子学院主催）の審査員、2012年に北海道地区高校生中国語発表会の審査員をそれぞれ務めるかたわら、公益財団法人札幌国際プラザや札幌大学孔子学院との協働、人文学部とAIRDOとの教育連携協定に基づく中国講座の開催などによって、北海道における中国語・中国文化の普及ならびに中国との国際交流に力を尽くされました。この間、先生のご指導によって、2005年と2022年には、本学の学生が「漢語橋」世界大学生中国語コンテストの世界大会決勝に進出するという快挙を成し遂げました。

先生が中国語を学ぶ学生のために費やした時間は、上記のようないわば公式の活動だけではありません。先生は、長らく学内における中国語研究会の顧問として学生の組織運営を助け、北京理工大学への語学研修旅行を

実施するとともに、機関誌『北海中文』の刊行、夏・冬合宿の開催、検定試験対策の課外特訓、読書会など多岐にわたる献身的な課外教育を実施されました。完全なボランティアであるこのようなご活動には、同じ大学教員として頭が下がる思いです。

さらに、人文学部長として、もうひとつ深く感謝していることがあります。人文学部では、現在、2025年度のカリキュラム改訂の準備を進めており、その中で、副専攻プログラムの設定を予定しています。その中のひとつが英語以外の外国語副専攻です。人文学部には、英語以外の語学の専門家は少ないため、実施するには全学のドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・韓国・朝鮮語の先生方にご協力いただく必要があります。先生方に手間をおかけするこのような副専攻にご協力いただけるか不安だったのですが、まず大谷先生にご相談したところ、大谷先生は学生たちの語学学習への意欲を後押しすると大賛成してくださり、英語以外の語学小委員会の先生方と橋渡ししてくださいました。また、ご在職最後のお忙しい一年に、めんどろな時間割の調整作業を自ら担ってくださるなど、最大限のご協力をいただきました。ここに改めて感謝申し上げますとともに、今後の北海学園大学と人文学部の語学教育へのバトンを受け取った責任を感じております。

個人的に印象に残っているのは、先生の博識と詳細な記録です。本学の中国語教育と北京理工大学との交流に関する詳細な記録はもちろん、先生は、これまでに携わってこられたあらゆる仕事について、詳細な記録を残されています。わたしはフィールドワーカーで、見聞きしたことはできるだけ記録に残すことを目指していますが、先生の記録は詳細かつ漏れがなく、とても真似ができません。また、学外で開催された「人文学の挑戦」で拝聴した『麻雀の誕生』に関する講演では、時代を超えて縦横無尽に繰り広げられる中国のゲームのお話しがとても魅力的で、引き込まれました。先生はもともとゲームがお好きで、大学卒業後は一時、ゲームを開発する会社にお勤めになったこともあるとお聞きしています。今後は、雑務を離れ、麻雀をはじめとする中国のゲームの世界を極めていただきたいと思います。

ます。大谷先生のますますのご活躍を祈念いたします。

そして、今後もぜひ、わたしたち後進にご指導ご鞭撻いただきますよう、
お願い申し上げます。

大谷通順先生には、本学における多大な貢献に鑑みて、2024年4月1日
付けで、北海学園大学の名誉教授の称号が授与されることを申し添えます。

